富士河口湖町
教育センターだより

No.10

平成23年 12月14日

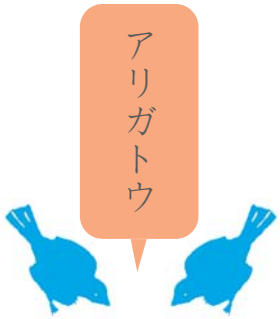
赤や黄に彩られた木々もいつの間にか肌木になり、朝夕の寒さが身にしみるようになりました。吐く息も白く、夕方は家路に急ぐ車のスピードが少しばかり増したようにも感じられます。歳を重ねれば重ねるほど、一年が短く感じられます。これは、人生の残りの時間に関係しているのだそうです。３６５日、全ての日を充実して過ごすことは出来ません。一日に１つでも小さな幸せを感じられたらいいですね。

私達はよく「すみません。」という言葉を使います。どんなときにも使える万能な言葉です。「すみません」を「ありがとう」にかえてみませんか。感謝する心が心に広がっていきます。私も時々思い出したように実践するのですが、「ありがとう」って簡単のようですが、案外言葉にするとなかなか出来ないものです。１２月は１年を振り返って、心のこもった「ありがとう」がたくさんいえるといいですね。批判的なことは、次から次へと出てきます。批判から生まれる次の一歩。感謝から生まれる次の一歩、どちらを選びますか？

１２月は１年のうちで一番夜が長い月です。芸術の秋は季節がかわっても続いているでしょうか？私は読書と思うのですが、睡魔には勝てません。音楽も睡眠を誘うばかりです。富士河口湖町では児童生徒の教育の一環として、毎年数校ずつ、身近で鑑賞できるプロによるミニコンサートを行っています。去年に引き続きヴァイオリンのトーマス・ヴィンクラットさん、ウイーンピアノトリオの皆さんの演奏を聴くことができました。子どもの頃に目にしたもの、耳にしたもの、体験したものは、確実に心に残ります。いつ心の中から表にでてくるかはわかりませんが、ふとよみがえってくるものです。皆さんの記憶にもありませんか？子どもの情操にも力を入れてくれる町の教育に対する支援の数々には、感謝で一杯です。まだまだ不十分なところもあるでしょうが、町の教育に対する理解と協力に今後も大きな期待をよせていきたいと思います。期待するばかりでなく、私達も、まずは基本である我が子の教育にしっかり目を向けるをことが大切です。義務教育だから当たり前でなく、そこに感謝の気持ちが持てたら、よい関係が築けると思います。

〈於 富士豊茂小学校〉

〈於 大石小学校〉



今の時期、どの学校でも先生方との話し合いが持たれていると思います。客観的に子どもの様子をきくことのできる良い機会です。「どうせ、言われることはわかっている。」ではなく、子どもがよりよい学校生活が送れるためのよい機会としてください。決して、怒る材料にしないでください。子どもは親の姿ですから。